

## 平成28年度 磐田市少年補導センター運営協議会 会議記録

- |       |                                                                                                                                            |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ○ 日 時 | : 平成28年7月19日(火) 午後1時30分～午後3時15分                                                                                                            |
| ○ 場 所 | : iプラザ 2階 ふれあい交流室1                                                                                                                         |
| ○ 出席者 | : 市川和幸会長、沼野伸一副会長、鈴木隆之委員、松島了二委員<br>鳥居修平委員、大石昌利委員、寺井啓高委員、佐藤文宣委員<br>事務局 教育委員会 村松教育長<br>少年補導センター 名倉所長(市民活動推進課長)、牧野部付主査<br>三浦主査、村井主任、吉武副主任、後藤主事 |

### 1. 開会

### 2. 委嘱状及び辞令書交付

新任委員3名

### 3. 教育長あいさつ

皆様こんにちは。暑い中お集まりいただき有難うございます。日頃は、健全育成にそれぞれのお立場でご尽力いただきまして深く感謝申し上げます。5月17日には少年補導員の委嘱式及び研修会を行いました。早いもので7月は県内一斉補導及び立入調査を行う時期となりました。そういう中、1年前を振り返ってみますと、昨年度大阪の寝屋川で中学1年生2名が事件に遭いました。朝方の5時ごろ防犯カメラに写る二人の姿が目撃されました。いろいろな家庭事情もあるわけですが、あの子どもたちを救うことが出来なかった。枠の中に入れることが出来なかったのは、一体どういうことなのだろうか。考える必要があると改めて思います。

最近で言いますと魚を取りに行く時に使うスティックを使って16歳の少年が人を殺してしまいました。その理由として挙げられたのが「殺してみたかった」ということです。昨日テレビでもああいいう子たちが何であいいう行動に出たのかどうしても分からないと言っていました。フランスニースで起きた事件。車で乗り込んであのようなことは人間として出来ることではありません。

もう一回考えなくてはならないのは「負のサイクル」。ああいいうような行動を起こした人は、ある日突然ああいいう行動に移ったのではありません。16歳の少年はある日突然あのような人間になったのではありません。私が思うに、心の中に負のサイクルがありまして、マイナスのサイクルが何回も何回も波打つようにその人の心を蝕んでいく。その人の心に何回も何回も押し寄せてきて、そういう中で一つ大きな心の決断をしてしまった。だから必ずそれまでの前兆や要因が必ずあります。遺体遺棄事件、遺体バラバラ事件という大きな事件がありました。そこへ行くまでの経緯の中で何かがありました。その辺のことを私たちは見ていかななくてはなりません。

本日の資料の中にも出ていますが、不良行為少年の学識別・行為別状況表の中で喫煙は平成24年度は217件。平成27年度は161件。深夜徘徊が平成24年は957件。平成27年は336件。刑法犯についても、平成24年129件。平成27年は69件。ということです。全体としては警察を中心とするいろいろなご指導の中で或いは、皆様方の活躍の中で数の動向は変わってきています。僕自身が学校現場にいる中では、肌を感じるところによると昔に比べると学校現場からの生徒指導の報告件数は少なくなっています。昔は40名ぐらいで喧嘩したことがありましたが、そういうものがかなり少なくなりました。その反面内にこもる、例えば家出。親と何かがあってそのまま家を飛び出した。ある面では、喧嘩をやってくれる方がいいように思うところがあります。自分たちの心の中にあるわだかまり

を発散する喧嘩があります。内にこもるものがあります。いろいろな面で鳥居課長さんからご指導いただく点が数多くあると思います。相談に乗ってもらっているものも何件かあります。ご迷惑をお掛けしていますが、よろしくをお願いします。

心の中の闇をどういう風に見取るか。他人の内のことなので立ち入ることが出来ません。出来ないが学校の職員の声掛け。いかに地域の方に声掛けをしていただけるか。一步踏み出すところを食い止めることができるのは学校の先生方の一言であり地域の方の一言です。必ず食い止めることができます。負の連鎖を食い止めることができると改めて思います。忙しい中ですが補導活動は地域に対して抑止力になるし子どもに対しての主張にもなります。

お忙しい中ご支援をよろしくお願ひしたいと思います。

#### 4. 会長あいさつ

皆様こんにちは。暑い時間帯ですが、参加いただき有難うございます。今年も暑い夏がやってきましたが、これから小中学校の休みとなります。休み中は、地元の人たちとのコミュニケーションやイベント等もあるのでそういうものにどんどん参加してもらおうことで、どういう付き合いをしたら良いのかということが考えられるのではないのでしょうか。

磐田警察署から豊田駅の駐輪場で自転車盗が多いということを言われ、学校から帰る時自転車がなくなると困ると思い、先日地域課長さんや署員の方4名と推進委員の全5名で点検をしました。昨年点検した時は半分以上が無施錠でしたが今回90%は鍵がかかっていました。全部で80~90台ありましたがその内施錠してないのは6台のみでした。言えば出来ることだなと感じました。磐田駅と豊田駅が自転車盗のN01、N02を争っています。良いことで争うのは良いが悪い事で争うのは良くないです。皆さんが施錠を心掛けてくれると現実の状態を見てもらい、日々地道な努力ではあるが、鍵を閉めることやあいさつをすることなど地域の方々がこぞってやることで子どもたちの受け方も違ってきます。中には、道を外れたなという方がいれば、自然と声を掛け訳を聞けば、「そういう訳か」ということもあります。子どもたちを蚊帳の外に出さずに、中へ入れてやるのが基本ではないのでしょうか。青少年を立派に育てたいので、ご協力の程よろしくをお願いします。

#### 5. 自己紹介

自己紹介の中から（特記事項のみ記載）

- ・学校関係や警察関係の方々から得た情報を地区に戻りプラスになるように伝えていきたい。
- ・毎朝、小学生の交通補導に出たり中学生高校生の自転車や朝の挨拶等で声掛けをし合って良い関係になれるとよいなと思っている。

#### 6. 議題

##### (1) 少年補導センターの業務等について

事務局から、少年補導センターの業務についてご説明させていただきます。  
磐田市少年補導センター要綱。(業務)第3条には少年補導センターの業務

- ① 少年に関する相談の受理及び措置に関すること。
- ② 街頭補導活動に関すること。
- ③ 情報及び資料の収集に関すること。
- ④ 青少年関係機関及び団体等との連絡調整に関すること。
- ⑤ その他少年の非行防止及び健全育成に関すること。

以上の5点となっています。

次に具体的な事業計画及び活動内容について説明させていただきます。

「平成 28 年度磐田市少年補導センター事業計画」です。

5 月 17 日には少年補導員の委嘱式と研修会を開催しましたが、補導員総数 127 人のうち、113 名の方にご参加をいただきました。なお、本年度の 127 人の補導員の構成ですが、自治会側から推薦された方が 89 人、小学校、中学校、高等学校の各学校長から推薦された先生方は 38 人、といった内訳になります。また、127 名のうち、前年度から継続して努めていただいている方が 87 人、新任の方が 40 人という状況です。

次に、今後の事業計画ですが、7 月には一斉夏季補導が組まれています。これは毎年行っているもので、一部の地域を除き 25 日に実施します。ご協力お願いいたします。また、同じく 7 月には、書店、コンビニ、ビデオ・DVD 取扱店等に対する立入調査も併せて行います。

8 月～10 月にかけての各地区祭典補導、12 月の一斉冬季補導、3 月の卒業式警戒といったものが主なものです。

以上が、平成 28 年度磐田市少年補導センターの事業計画となります。

平成 28 年 4 月から 6 月までの活動状況ですが、例年 7 月から本格的な補導活動に入ることになりますので、この期間は各数値は少な目となりますが、声掛け状況や活動内容は、資料のとおりです。

活動内容の中で、特別補導とありますが、これは市に青パト装備車両がありますので、その車両を使って職員が補導のパトロールを実施したものです。

次の有害図書類の回収ですが、白ポストは旧磐田市内交流センター 6 ヶ所の外に磐田市文化振興センターの玄関口に設置されている有害図書類の回収ボックスです。4～6 月の間ここから成人向け DVD 21 点を回収しました。

相談状況ですが 1 件いじめ相談がありました。

次の会議、研修会等ですが、静岡県青少年補導センター連絡協議会や御前崎市以西の 8 市町の補導センターの職員による情報交換（静岡県青少年補導センター連絡協議会西部ブロック会議）も行っております。また、11 月に開催される、西部ブロックの研修会では講演会が開催されます。そのことにつきましては、会の最後に委員の皆様にご案内したいと思います。

次に 3 の夏休み対策ですが、7 月は「青少年の非行・被害防止強化月間」として、各家庭に次のページにありますチラシを回覧させていただきました。ご覧いただけましたでしょうか。

また、先程申し上げました、夏季一斉補導、立入調査を予定しています。立入調査につきましては、**目的…青少年の非行を未然に防止すること、地域の実態に即した環境整備に努めることです。**市内対象店舗：書店、コンビニ、ビデオ・DVD 等取扱店等の他、スマホ利用に関し問題が多発していますので、携帯電話インターネット接続提供事業者も訪問します。本年度も、県の関係機関（西部健康福祉センター・市内公立高校）の職員も磐田市少年補導センター職員と一緒に立入調査を行い、健全な環境整備に努めます。約 60 店ほどを予定しています。

調査の要点

- ・書店 有害図書の陳列や監視状況
- ・カラオケ等 深夜の入場制限の有無（従業員の認識も）、掲示は適切か、年齢確認は行っているか
- ・携帯電話の取扱店舗においては、フィルタリングサービスの利用状況

また、8月27日(土)には、センター職員により夏季特別深夜補導を計画しています。

深夜22:30~00:30いわた夏祭り花火大会終了後市内全域を回る予定です。

次に、「磐田市における不審者事案発生状況」及び「磐田警察署管内の犯罪少年・不良行為状況表」を添付させていただいておりますので、こちらをご覧ください。

まず、最初に「磐田市における不審者事案発生状況」をご覧くださいと思います。ここに掲げられていますように、本年1月から6月30日までの約半年間で25件の発生がありました。昨年と同じ時期に32件でしたので、本年度は少し少なくなっています。地区別では磐田地区が12件、福田4件、竜洋4件、豊田4件、豊岡1件でした。また、行為別では、声かけが8件、つきまといが5件、わいせつ行為が3件、写真撮影3名、連れ去ろうとする1件、脅迫・暴行1件、その他4件です。いずれも主に小学生や女子生徒など、力の無い者・弱い者を対象としたものであります。6月に25件中12件ありぐっと増えました。

このような行為は、一歩間違えれば凶悪犯罪に発展しかねない大変危険な行為だと言えます。これから夏本番を迎え特に注意が必要だと思っております。

次に、磐田警察署管内の犯罪少年・不良行為少年状況表ですが、これは磐田警察署から資料提供を受けたものとなります。5月17日に行いました、少年補導員委嘱式・研修会の資料でもお付けしたものです。磐田警察署が事件として取り扱った数字、あるいは補導した数字に過ぎないものと言えます。そういったことで、この数字に表れない案件もかなり存在するものと思われれます。

補導センターとしましては、こうした不審者情報や、犯罪・不良行為に関する情報を絶えず注視し、今後の補導活動に活かしていきたいと考えております。

以上、「少年補導センターの業務」について、事務局から説明させていただきました。

## (2) 最近の青少年の動向について (要旨のみ記載)

(委員からの発言要旨)

・少年非行について、昨年の少年非行は82名。前年度比26名減。10年位減少傾向になっている。少子高齢化という社会情勢と比例している部分もある自然減に加えて皆さんの育成活動の効果が表れているのではないかと。しかし、減ってはいるものの万引きや窃盗で検挙された人員が全体の50%を占めている。万引きと自転車盗を減らすことが出来れば、少年非行の数も減るのではないかと。

82人という数字だが、浜松中央・浜松東・清水・沼津・磐田で県内5番目である。決して少ない数字ではない。高い位置にあることを認識して欲しい。袋井警察署管内では62名の非行少年が検挙されている。袋井警察署が出来る前は、磐田警察署が袋井及び浅羽を管轄していた。現在袋井は森町と袋井、浅羽を管轄し、そこで62名が検挙されている。旧磐田警察署管内と考えると144名となる。県下トップの浜松中央が107名なのでそれを考えると1番である。磐田地区として考えると少年の非行が多い。最近の少年は、SNSで繋がり交友関係が広域化している。磐田地区の少年非行だけ捉えるのではなく磐田地区として考えて、対応していかないと減っていかない。

少年の広域化に伴い非行集団と呼ばれるグループが緩やかに形成されてきているのが憂慮されている。5月頃ポリ鬼の事件報道が取り上げられた。軽犯罪法違反で少年が家庭裁判所に送致された。竜洋地区の少年と浜松市内の少年の構成グループが起したものである。ポリ鬼とは、公衆電話等から虚偽の通報をし警察官が出動してくると、近くで見ている距離を保ちながら逃げ回るというもの。今回検挙された少年の中には50回位やっていた少年もいた。これは、竜洋地区の少

年が浜松地区の少年とグループ化して行ったことだが、市内にもある特定の中学校の在校生と卒業生を中心としたグループが3グループほどあり警察が把握している。グループの影響力を弱め、将来的には解体していきたい。また、そういう集団の中には、「ノー」と言えず従って嫌々付き合っているという子も現実に居る。そういう子どもたちを救うためにもグループの解体が必要である。

夜遊びしたり煙草を吸ったりすることがかっこいいという誤った価値観を普通の子どもたちにもたせない為に、皆さんの力を借り不良行為を押しえ込んでいきたい。

被害者の立場になる子どもたちについて。自転車の施錠率が高くなったというお話があったが良い傾向である。在校生は出来るようになったが、今後も新入生が入ってくるので継続した広報が必要である。

スマホを使いながら、自転車に乗ったり歩きながらスマホを使っている女子中高生に多い。注意力が散漫になり警戒心が無く被害に遭う可能性がある。ながらスマホをしないようさせないよう注意喚起をしたい。

- ・本日資料にあるような、不審者情報状況一覧表など過去2~3年のものを学校サイドに流しPTAの行事の際などに保護者に知らせると興味をもつのではないか。市からのメールに登録しておくとその都度メールが届くが、その場で消えてしまうしスマホなどない方もいる。学校サイドから流すと注意喚起になる。
- ・学校側より…不審者発生状況一覧だが、ホットメールやSP君など学校も情報を得ている。各年度積み重ねより、今何が起きているか緊急性が高いものに主を置いている。地域の方で防犯の方はどなたか学校側ははっきりと分からない。代表者の方は分かるが、他の方が分からない。いろいろな情報を学校に入れていただけると有り難い。
- ・教育委員会より…学校から教育委員会の方に不審者情報が入ってくる。小学校から入ってくればその小学校から中学校と近隣の小学校に全て教頭から連絡を入れるようになっている。中学校区の小中学校は情報を共有できる仕組みになっている。ホットメールを利用して保護者の方にも情報を出している。一覧表を見ることも大事だが、瞬時瞬時に対応するよう動いているのが学校である。データを取っているので、案件が多ければ学校に連絡し、注意喚起をしている。幼稚園や保育園の方にも連絡している。
- ・役員だけが知っているのではなく、いろいろな場や地区で不審者情報等話題にする必要がある。
- ・役職がら、情報は自分の所で止めるのではなく、それをみんなに伝えていくのが役目である。
- ・高校から…磐田市内の高等学校はどこも比較的安定している。粗暴とか万引き等あまり無い。高校生は思春期で特有の悩み等抱えている。不登校や引きこもりなど心の問題や親との関係の悩みもある。友人間の人間関係のトラブルもある。県内の高校生の自殺もある。また、許可制ではあるがアルバイトもしており、その中でブラックバイトもあり学業に影響してしまうものもある。スマホの問題もあり指導が難しい。

### (3) 情報交換

これからの少年補導と少年補導センターの有り方について(今後の見直し)…事務局より提案少年補導及び少年補導センターの話の前に、まず資料に沿って地域の組織の見直しを図っていることについてお話しする。資料に沿って地域づくりの説明。

そこで…少年補導センターがもっている少年補導員という制度。これは各地域から推薦をしても

らい市が補導員として委嘱をしているものである。その補導員の方が少年補導という活動を地域の中で行うという仕組みになっている。市の方から強化月間があったりするものの地域の中で年間計画を立てて年 5~6 回程度補導活動をしている。少年補導については、年 1 回の委嘱式で研修をするので補導の手引きや補導手帳なども分けている。補導は、少年を救っていくことが補導活動だが地域の中で見守りをする中で、危ないなとか巻き込まれているなという少年少女を見付ければそこに行き話をして助けたり更生をさせたりというのが主になる。しかし、実際は、皆さんからの報告書を見るとそういった事例は本当に少ない。ほとんどは、挨拶や帰宅指導などの声掛けで終わっている。原因は、環境が変わってきたこと子どもたちの社会生活変わってきたこと。先ほどお話があった通り、犯罪は減ってはきているが安心できない。表立った活動として目に見えない。これは一般的な少年補導をしていく中では見つけられない部分かなと思う。磐田では、街中(駅前通り)の環境と地方部とはかなり違う。夜間に出歩いている子どもの状況も違う。子どもたちがいる場所も違う。そのような中、市内一律に同じような活動をしていくのはどうか。そのようなことを含め、出来れば少年補導員という制度はここで一回、切りにして地域づくり協議会の中で、それぞれの実情に合わせて、例えば防犯委員や、地域の見守り活動をしている方々、地域安全推進委員さん方がいるのでそういう方々が一緒になって少年を見守っていく形を地域の中で組み立てていただくことが出来ないだろうかということを考えている。もしそういう形が出来るのであれば、市の方から委嘱するのを止めにして活動にかかわる経費としてある程度の活動費は交付金の中でまかなっていただく。地域でやりたい活動もしくは地域で必要な活動を皆さんで見つけて活動していただく。市の方に報告を出す中で地域で手に余る状況があれば市や警察も入る。そのような活動が出来ればより充実するかなと考えている。今すぐこうするということがここで決まった訳でなく事務局として検討していますということである。少年補導活動が地域の中で活動するようになるよう切り替わっていくなれば補導センターも業務の見直しをしていかななくてはいけない。条例見直しもしていく。少年補導センターとしてのセンター機能が本当に必要か。もしくは市の所管するところで同様の活動(立入調査や夜間補導、環境実態調査等)は市の職員が当然やればよい。センターという名前が無くてもできる。今検討しているということでお話しさせてもらったので、委員の皆様のご意見を伺いたい。

#### 委員からの意見

- 全市一斉補導だが、子どもたちと出会えることも少ない。課長さんの言った通り役に立ったのかなと思う。非行被害防止を考えると頭が痛くなる。子どもたちの事故を考えると一番は交通事故であるので交通安全に力を入れつつ、中学生高校生の自転車も含め声掛けが出来たら良い。昨年の少年非行は 82 名というのは 多い。磐田の子どもはそんなに悪いのかということと会って話したりイヤホンを耳に当てて自転車を運転している子に「君！これ」と指差すとやめてくれたりする。信号無視の子に「おい！」と言うと「今度気を付けます」と言う。そんな悪い子ではない。警察の努力で細かいところまで見つけて 82 名という数字が出ている。
- 青少年健全育成会の見直しについては、すぐこうやると言っても地域でいろいろな意見があるので大変だろう。1~2 年年数をかけてやるのが良いのではないか。また、周りの市町の実態はどうか資料を添付してやらないといけないのでは。方向性としては、理解する。少年補導について法的に権限はない。抑止効果レベルである。

## 事務局より補足

- ・今取り組んでいる地域づくり協議会だが来年からいきなり切り替わるとは考えていない。徐々に動いていくということである。現在ある組織そのものをなくすということではなく、組織を見直す中で、みんなで取り組むにはどういう形が良いかを考え直して欲しいということである。先ほどから出ている若草会や明豊会などは青少年健全育成の組織なので、青少年健全育成団体へも見直しについてお願いしてある。その中では少しずつ形を変えながらみんなで子どもたちを見ていくような体制作りをしていく。少しずつ変わっていくということである。
- ・近隣の市町の状況だが、地域の組織化は全国で動き始めている。まだ、これが一番の成功例というものはない。地域組織なので行政の方からあしなさいこうしなさいと言って形を作るものではない。これが一番いいモデルというものはないので、どこの市町も困っていて、いろいろな資料を参考にしながら、それぞれの環境に合わせて、地域実情に合わせて作り替えをしながらお願いをしていくというのが実情である。県内では磐田は早めに手を付け始めた。袋井掛川は、これから動こうかなと言うぐらい。菊川市は早めに動いているが組織体が小さい。公民館を中心にしながら自治会連合会組織をコミュニティー組織に切り替えるやり方をしている。公民館の組織があるのでそこにいろいろな団体をくっつけるというやり方。掛川は行政主導で今動こうとしている。行政の方から地域をこうしなさいあしなさいという中で地域組織はこういう形にしなさいというように動きを始めている。磐田は、一昨年から公民館を交流センターに切り替えたところから、自治会連合会とお話をしながら地域で協議をしていただくという状況である。

少年補導の活動自体が時代とともに変わってきた。昔は抑止効果という形の中で良かったが、今の子どもたちは、賢い。いろいろなことを察知しながら、逃げてしまったりいろんな情報がスマホで先に入ってくるということで大人が動く前に子どもが動いてしまう。その上をいって形を作っていかなければならない。

## (4) その他

### 事務連絡

- ・静岡県青少年補導センター連絡協議会西部ブロック講演会 11月24日(木)  
講師静岡県声掛けアンバサダー 女優 藤田弓子氏。

聞いてみたいと思われる委員さんはぜひご参加いただきたいと思います。自由参加です。正式な案内文章が届き次第、委員の皆様にもご案内させていただきます。

## 7. 閉会